

2月24日、JR東海に抗議の声、「リニアはいらない！」

2020年2月24日（月、祝日）山梨県ではじめてのリニア建設反対のデモ行動が行われた。主催は、「リニアはいらない！2.24 統一行動実行委員会」で、県内のリニアの運動団体のほか、環境保護団体、女性団体、政党などの関係者が中心になって計画がすすめられた。

当日は10時30分に甲府市総合市民会館に集合、沿線住民や関係者からの発言があったあと、11時頃にJR東海の子会社山梨工事事務所（甲府市南口町）に向けて、デモ行進した。参加者は100名を超え、狭い道路のため長い列を作って進んだ。「リニアはいらない」「南アルプスにトンネルを掘るな」などのシュプレヒコールをくり返しながらか、途中で県外からの参加者などから発言もあった。11時45分頃事務所に全員が到着、JR東海が休日であることを理由に抗議文の受け取りを拒否したので、それを読み上げた上で、解散した。当日は好天にも恵まれ、参加者も多かったため、初回のデモとしては成功と言ってよいだろう。（川村記）

以下に当日読み上げた抗議文を掲載します。



抗議声明

二〇〇七年二月、JR東海がリニア中央新幹線の構想を公表して以来、一二年が経ちました。この間、JR東海のみならず、国も沿線各県もまた企業も団体も、まるでリニアの熱に浮かされたようにはしゃぎ続け、リニアの本質を見抜く力を失ったままです。

リニアが通れば便利になる、リニアが通ればお金が儲かる、ただそれだけが絶対善で、いったいリニアが通れば私たちは何を失うのか、それを少しも考えようとしません。

それにしても今日に至るまでのJR東海の事業の進め方に、私たちは呆れ返り憤っています。全長二八六kmの環境アセスは、荘厳な南アルプスにトンネルを掘るという大自然破壊に何の配慮もなく、わずか三年間で終わってしまいました。その結果アセスはアセス史上最悪のものと評価されるまことに酷いものになりました。そしてそうした杜撰なアセスの結果が、いまJR東海が直面している残土処分地の不足、大井川の水問題のこじれを惹き起こし、工事を進める上で大きな障害になっています。杜撰なアセスのツケがまわり始めたのです。

一方沿線住民に対する説明も、一見丁寧さを装いながら、実態は住民の声に耳を傾けようとしません。また住民に必要な情報を出さないために住民の怒りと反発は増すばかりです。しかもJR東海の住民に対する態度は、高圧的で傍若無人そのもので、ただ一つ低姿勢になるのは、土地の売買対象の住民に無理を言いつくらないでしょっか。

こうしたJR東海のやり方に、国は口をつぐんで黙認し、県はその手先となって用地収用のため奔走し、住民は孤立を深めるばかりです。たとえば騒音の問題一つとっても、騒音レベルの低減を願う住民の要望を無視し、JR東海の側に立つような山梨県の振舞は、決して住民の福祉を重視する自治体とは言えないでしょう。

またJR東海は、リニア新幹線を自社費用で造ると公言しながら、一〇年もたたぬうちに財政投融資によって三兆円の公金を手にし、また沿線自治体の公費投入を当然とし、半ば公共事業として工事をすすめています。杜撰なアセス、約束違反、住民騙し、等々の数々の不正を重ねながら、JR東海はリニア工事を続行しようとしています。

私たちは声を大にして訴えます。

JR東海は住民の声を聞け！

JR東海は南アルプスにトンネルを掘るな！

JR東海は財投三兆円を国に返せ！

そして何より

JR東海はリニアの工事を中止せよ！

私たちはリニア計画が中止されるまで、一都六県の沿線住民と手を携えて闘っていきます。

二〇一〇年二月二四日

リニアはいらない！ 2・24統一行動委員会

参加者一同